

放置竹林を活用した 早取り白子タケノコの生産

株式会社エピネス 代表取締役

元静岡市議会議員 宮沢圭輔

竹チップ栽培成果

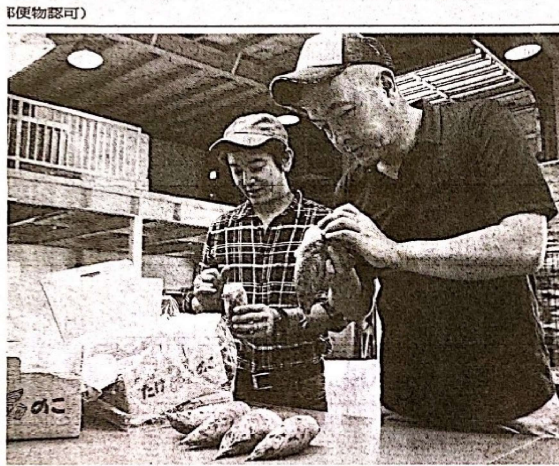
早掘りタケノコ出荷

静岡市の
宮沢圭輔さん

【静岡市】JA静岡市久能集出荷場で11月下旬、タケノコの出荷が始まった。宮沢圭輔さん(41)が放置竹林を整備し、竹チップを使って栽培。国内でトップクラスの出荷の早さ。日光を浴びないため色が白く、甘味が強くて食べ味が少ない。掘りたては生で食べられる。

6次化にも意欲

宮沢さんは、元静岡市「環境学などを専攻。放置協議会議員で議員時代に「荒れた竹林が増えて困る」という住民の声を、就農し、同市日本平の竹

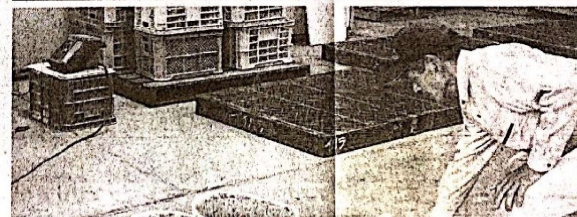


林30アを借り受け、タケノコの栽培を始めた。施設栽培が難しいタケノコは、4月の1カ月に出荷が集中するため、価格が低迷する。初物や正月から2月までは高値で取引されることから、出荷時期を早める栽培方法の研究を始めた。タケノコは寒い時期に地表から2、3センチ下まで伸びて春を待ち、地表面に芽を出すのは積算温度が関係することが判明。間伐した竹をチップにして地表を15センチほど覆い、保温と遮光で促成と肥大、芽の先端が緑化することを防ぐ竹チップ栽培にたどり着いた。一般的に11、12月に出るタケノコは100℃に満たない物が多い中、同方法のタケノコは300～500℃の物が出荷できるようになった。1、2月は500℃～1000℃に肥大する物が多くなった。初出荷は10アで、

正月商材 高単価も

静岡・JA大井川 果樹林産協部会 集荷スタート

【静岡・大井川】JA大井川管内の藤枝市朝比奈地区で11月下旬、今年度産のタケノコの集荷が始まった。毎年、正月商材として高単価が期待できるこの時期に出荷がス



豊洲市場へ出荷した。3月末までは早掘りタケノコとして生で出荷し、3月末からは水煮で出荷する。宮沢さんは「竹林はお金になることを証明した

2019年初出荷
11月23日

荒廃竹林「稼げる」対策提唱

竹チップ+堆肥＝白子タケノコ

宝の山へ改造



【静岡】全国的に問題になってい
る荒廃竹林を、竹チップが宝の山に改
造された。静岡市の宮澤圭輔さん(38)は、
荒れた竹林を伐竹しチップにして堆肥
を調製。20〜30分に敷いて直射日光を
浴びせると、えぐ味がなくなり、高級
品「白子タケノコ」を生産す
ることに成功した。太陽熱による乾燥を
利用しては白かぶの串出しや、高単価
で取引される、栽培竹林が日当たり
の良い優良な竹林に変わり、案々作業で
高収入が上がる循環サイクルが完成、
竹林対策に手応えを感じている。

静岡市の宮澤圭輔さん

需要のある1*程度の「白子タケノコ」生産を目指す宮澤さん(静岡市で)

高価格整備に意欲

有志で
友の会

静岡市東区東山町1-1-1 電話 054-821-1111

放置竹林を
宝の山へ

までには7月上旬の伐採し整備した。では06年度から粉砕機を、団体で貸し出す事業を、宮澤さんも17年度まで48の団体が延べ約〇回利用した。

宮澤さんは「荒廃竹林は宝の山、白子タケノコの需要はもっとあるの、他の地域でこの方法を広めたい。収入が上がると、循環サイクルを生み出す仕組みが大切だ」と強調する。

県事業を活用

静岡県は人工林を侵食する竹林を対象に、県独自の森林づくり県民税(1人400円)を財源に、06年度から備伐して針広混交林を整備する事業を進めている。16年度

比嘉彩夏さん 滋賀県東近江市

兵庫県伊丹市出身の比嘉彩夏さん(30)は、滋賀県東近江市で地域おこし協力隊員として活動する傍ら、同市の名産(めいわ)の竹笋の産地「白子タケノコ」を今年、44年ぶりに復活させた中心人物だ。18073(天正元年)に徳田信長が寺を築き附帯した

汗 次 十... 未来 人 会

放置竹林



タケノコの
形状変化
3月末からの
一ヶ月間で発筍
全体の9割



【出荷時期と価格】

青果用に出荷されたタケノコの時期別出荷割合と価格変動をみると（図4）、出荷量の少ない早期ほど高値がついている⁵⁾。

早期出荷の割合を増やして、タケノコ栽培の収益性を向上させることが、これからの大きな課題の一つである。

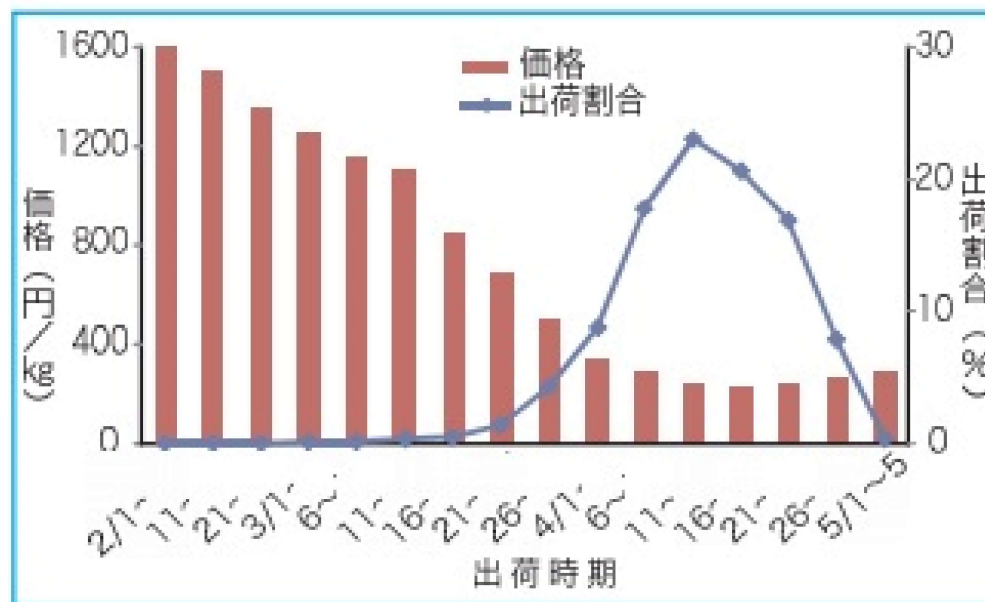


図4 青果用タケノコ時期別出荷割合と価格⁵⁾
— 平成18年JAふくおか八女 —

積算温度 と 早出し手法



図38 ビニールカーテン法による早出し



図39 ビニールハウス法による早出し

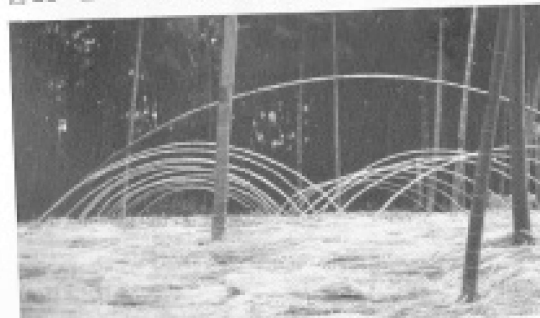
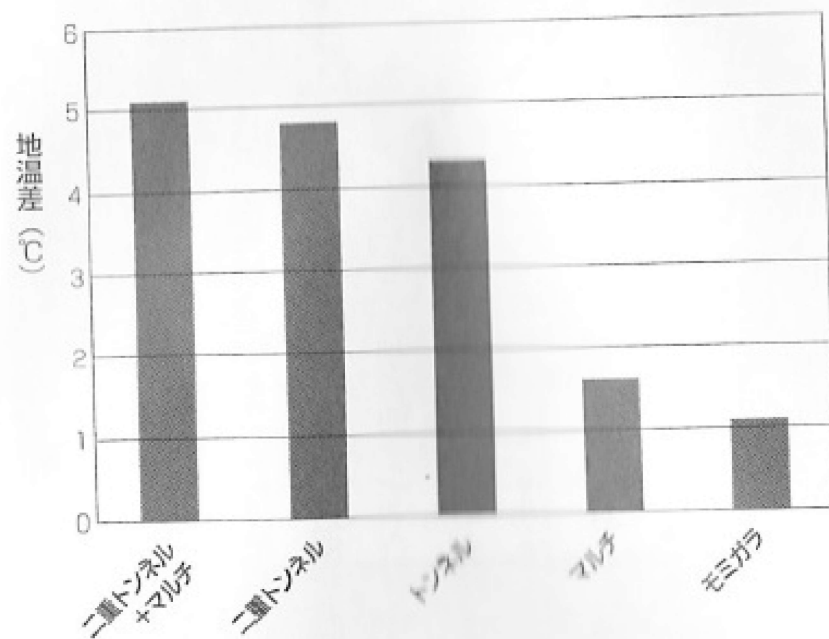


図40 ビニールを二重トンネルにした早出し

図37 保温方法と地温（対無処理区との差）



とにかく全て検証
山にマルチング
散水設備を設置



放置竹林の
枯竹・不要な
親竹をチップに

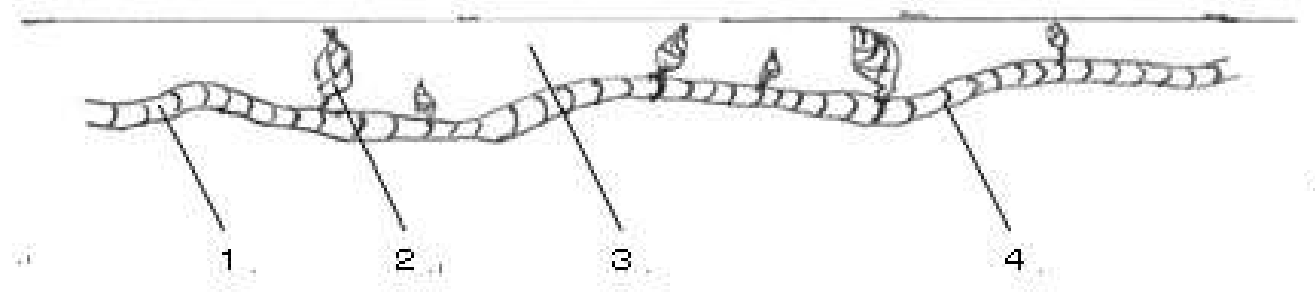


地温の上昇
春化処理に
成功

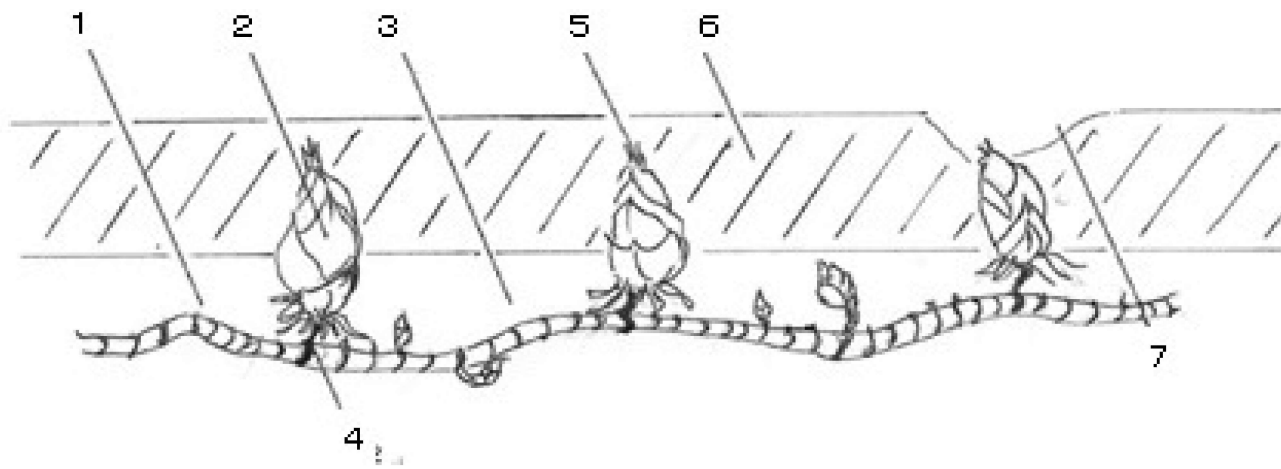


通常の地下茎

図 1.



竹チップによる 地下茎



春を待つ筍



早出し出荷
日を浴びずに地
中で肥大化
白子タケノコに
(写真1月)



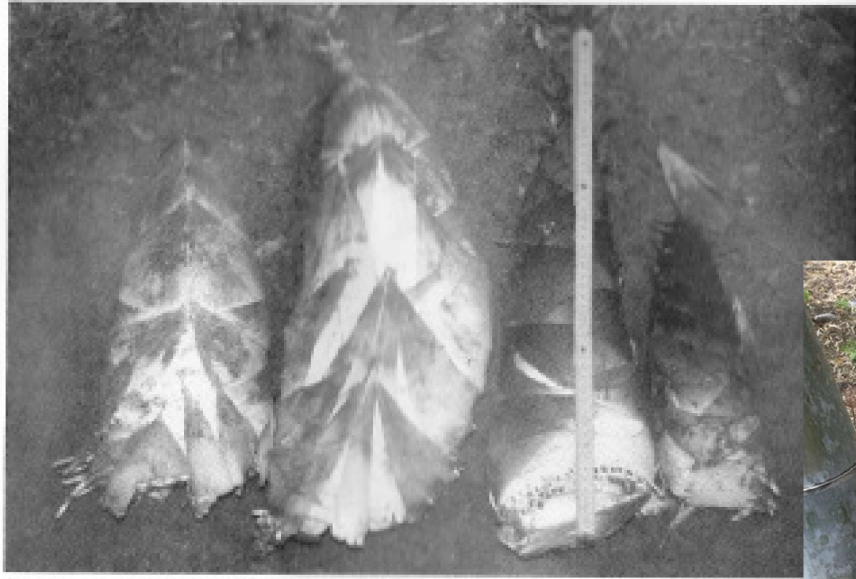


図13 シロコ (左) とクロコ (右) のタケノコ



白子タケノコ

窒素不足は
カブトムシが
リサイクル



右上が中国産
国産は無し
中央弊社産
(2月中旬)



専門誌



おしまい



竹ならどうするかを考える
全ての現象には理由がある